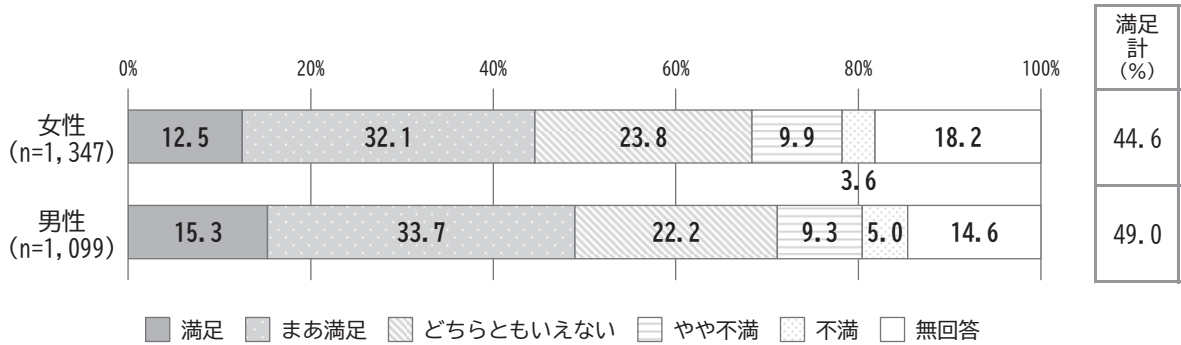


2. 仕事に対する意識について

(1) 現在の就労状況への満足度

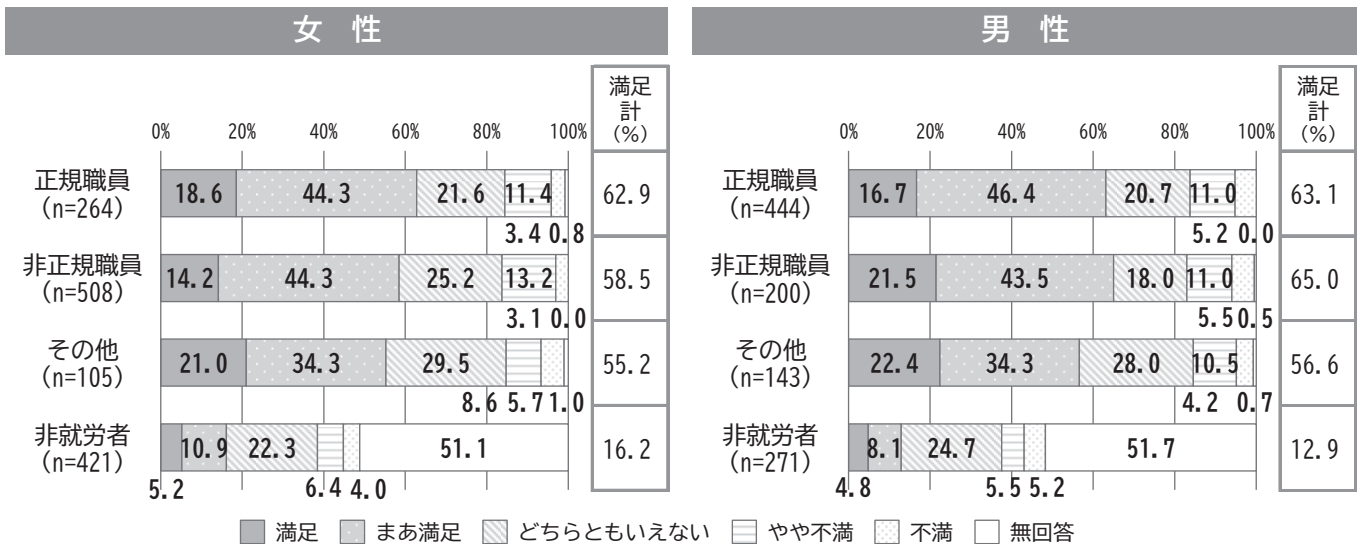
問 2-1 現在のあなたの「就業状況、業種」にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- 女性では、「満足」の割合が12.5%で、「まあ満足」(32.1%)をあわせた満足計は44.6%である。
- 男性では、「満足」の割合が15.3%で、「まあ満足」(33.7%)をあわせた満足計は49.0%である。
- 性別に大きな差はみられない。



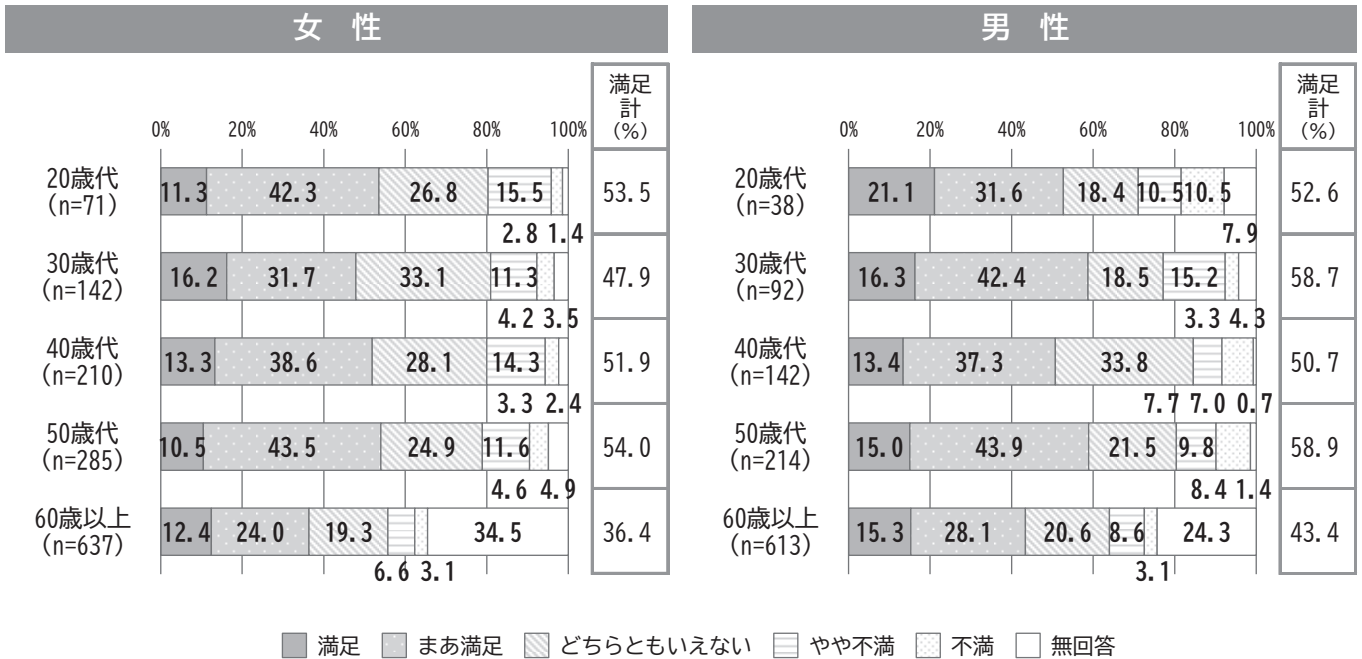
《就労状況》

- 就労状況別に満足計をみると、女性では正規職員で62.9%、非正規職員で58.5%、その他で55.2%、非就労者で16.2%である。その他の満足計は他の職種に比べてやや低めである。
- 男性では正規職員で63.1%、非正規職員で65.0%、その他で56.6%、非就労者で12.9%である。その他の満足計は他の職種に比べてやや低めである。
- 性別に比較すると、非正規職員女性の満足計は同職種の男性に比べて5ポイント以上低い。



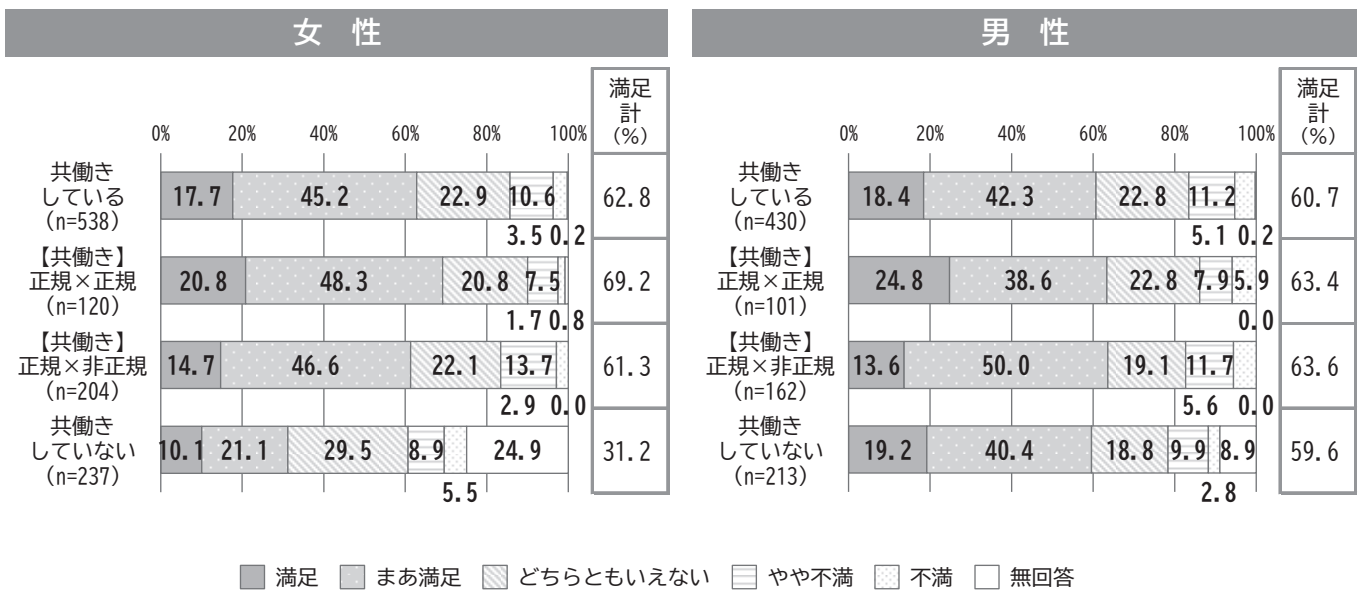
《年代》

- 年代別に満足計をみると、女性では、50歳代で54.0%と最も高く、20歳代（53.5%）が続いている。
- 男性の満足計は、50歳代で58.9%と最も高く、30歳代（58.7%）が続いている。
- 性別に比較すると、30歳代女性の満足計は同年代の男性に比べて10ポイント以上低い。



《共働き状況》

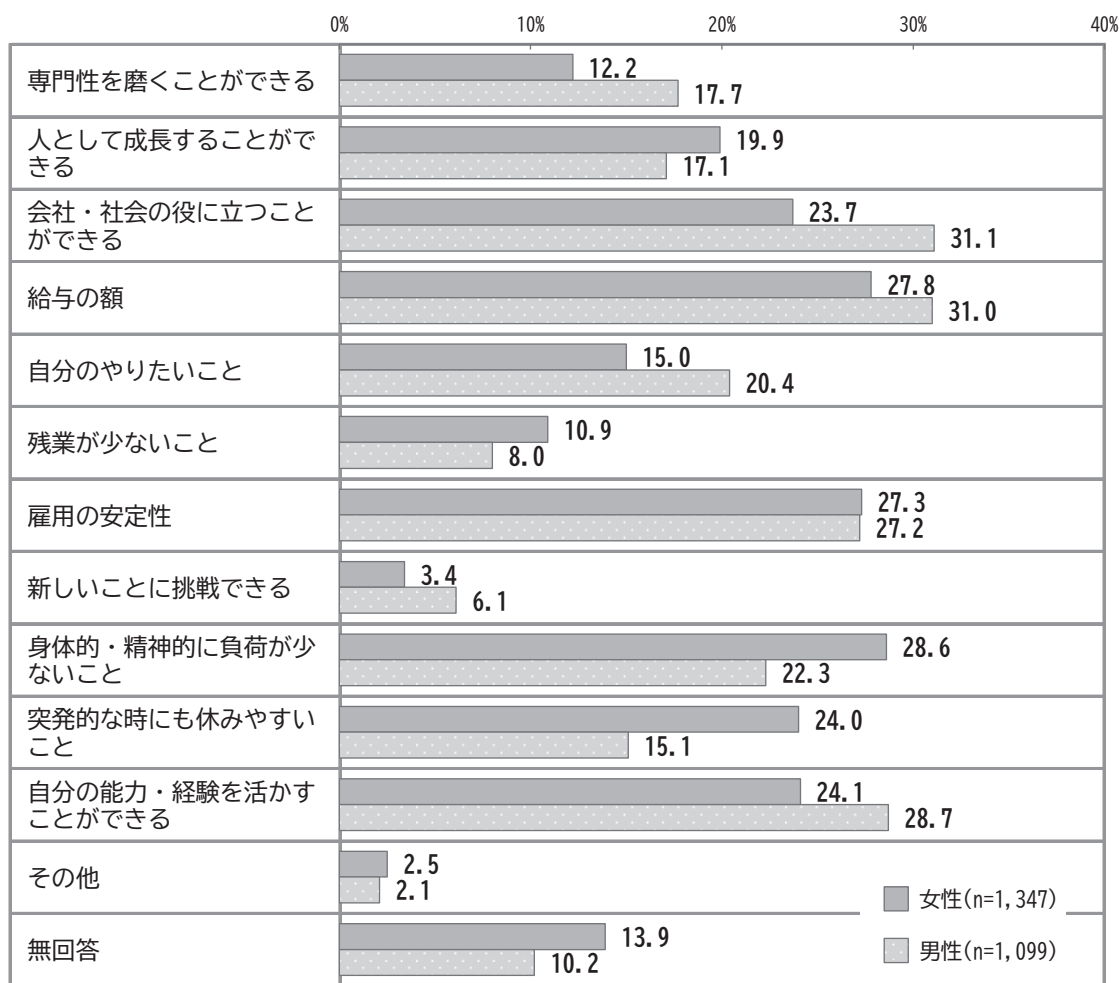
- 共働き状況別に満足計をみると、女性では夫婦ともに正規職員で共働きをしている層（以下、【共働き】正規×正規層）で69.2%と最も高く、夫婦のうち片方が正規職員、片方が非正規職員で共働きをしている層（以下、【共働き】正規×非正規層）で61.3%、共働きしていない層で31.2%である。【共働き】正規×正規層の満足計が【共働き】正規×非正規層や共働きしていない層に比べて高い。
- 男性では共働き状況別に大きな差はみられない。
- 性別に比較すると、女性は【共働き】正規×正規層の満足計が男性に比べて5ポイント以上高い。【共働き】正規×非正規層の満足計は男女で大きな差はみられない。



(2) 働くことに対する考え方

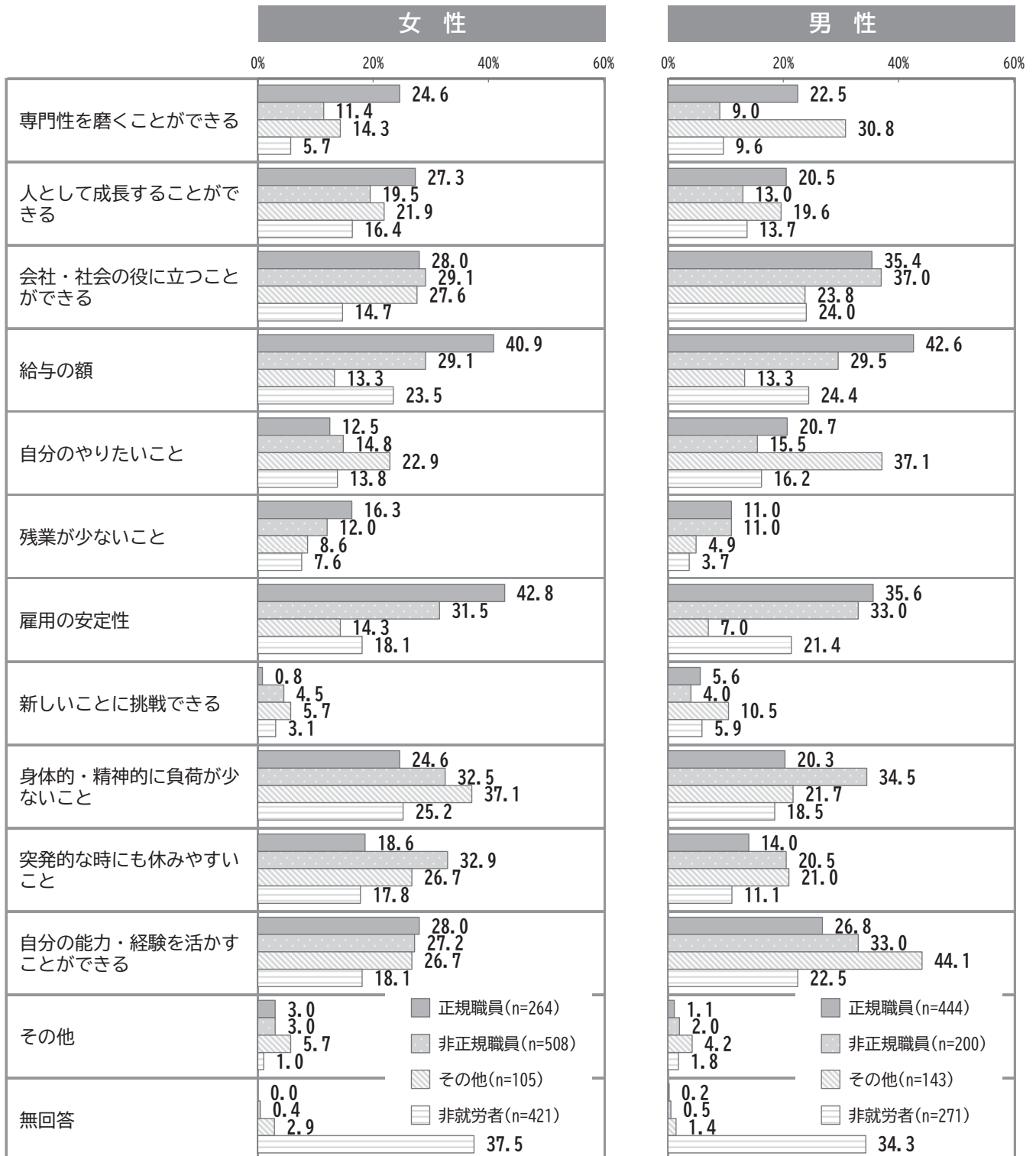
問 2-2 あなたの仕事・働くことに対する考え方について、最も重視するものをお聞かせください。
(○は上位3つまで)

- 女性では、「身体的・精神的に負荷が少ないこと」の割合が28.6%で最も高く、「給与の額」(27.8%)、「雇用の安定性」(27.3%)が続いている。
- 男性では、「会社・社会の役に立つことができる」の割合が31.1%で最も高く、「給与の額」(31.0%)、「自分の能力・経験を活かすことができる」(28.7%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「身体的・精神的に負荷が少ないこと」「突発的な時にも休みやすいこと」など雇用環境に関する項目が男性に比べて5ポイント以上高く、男性では「会社・社会の役に立つことができる」「専門性を磨くことができる」「自分のやりたいこと」など自己実現に関する項目が女性に比べて5ポイント以上高い。



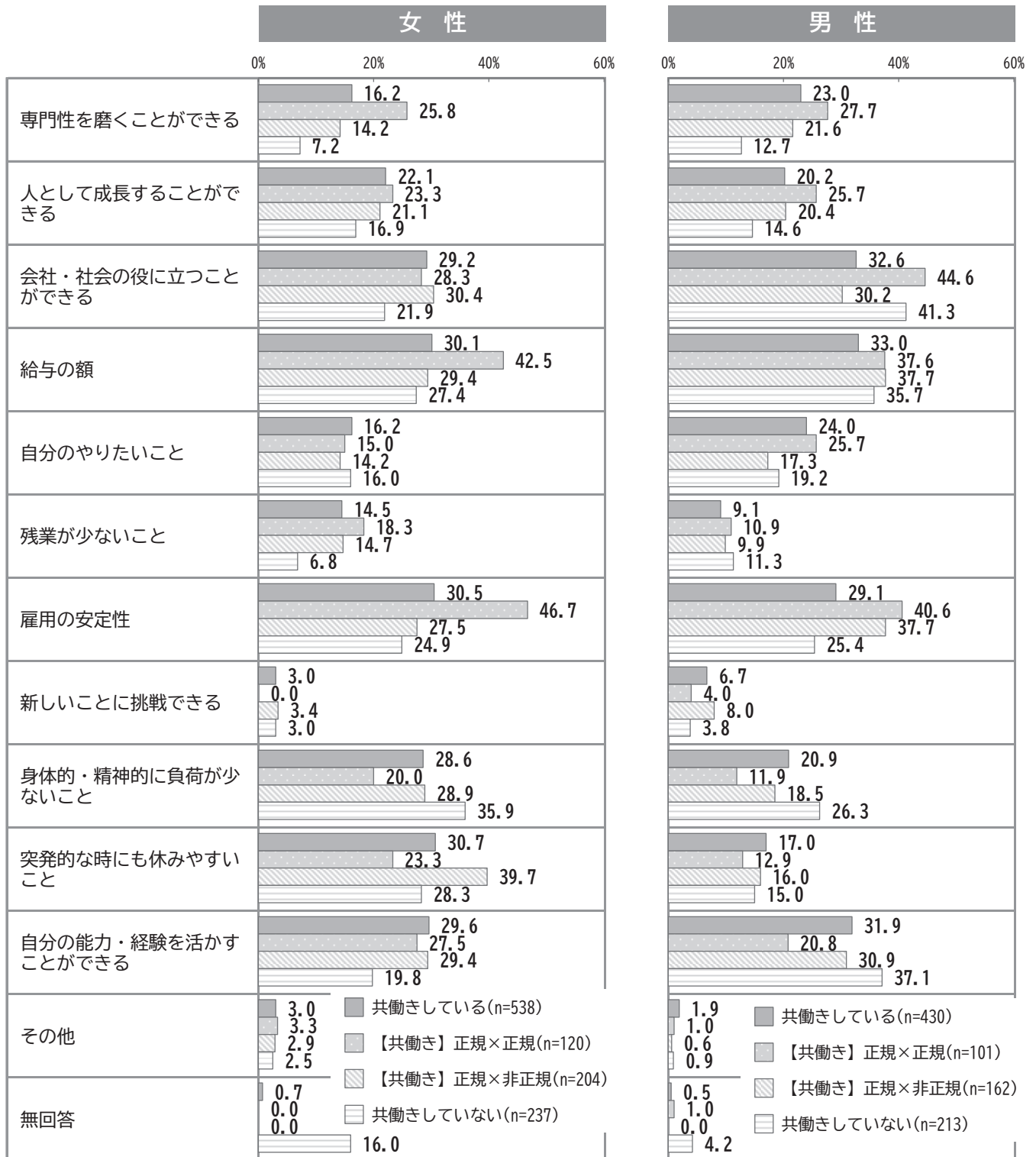
《就労状況》

- 就労状況別にみると、女性では正規職員で「専門性を磨くことができる」「給与の額」「雇用の安定性」が非正規職員に比べて10ポイント以上高く、非正規職員で「突発的な時にも休みやすいこと」の割合が正規職員に比べて10ポイント以上高い。
- 男性では正規職員で「専門性を磨くことができる」「給与の額」が非正規職員に比べて10ポイント以上高く、非正規職員で「身体的・精神的に負荷が少ないこと」の割合が正規職員に比べて10ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、女性の非正規職員は「突発的な時にも休みやすいこと」の割合が同職種の男性に比べて10ポイント以上高い。



《共働き状況》

- 共働き状況別にみると、女性では【共働き】正規×正規層で「雇用の安定性」「給与の額」「専門性を磨くことができる」が【共働き】正規×非正規層に比べて10ポイント以上高い。【共働き】正規×非正規層では「突発的な時にも休みやすいこと」が【共働き】正規×正規層に比べて10ポイント以上高い。
- 男性では【共働き】正規×正規で「会社・社会の役に立つことができる」が【共働き】正規×非正規層に比べて10ポイント以上高い。【共働き】正規×非正規層では「自分の能力・経験を活かすことができる」が【共働き】正規×正規層に比べて10ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、【共働き】正規×正規層で、女性は「突発的な時にも休みやすいこと」「身体的・精神的に負荷が少ないこと」「残業が少ないこと」「自分の能力・経験を活かすことができる」「雇用の安定性」が男性に比べて5ポイント以上高い。【共働き】正規×非正規層では女性は「突発的な時にも休みやすいこと」「身体的・精神的に負荷が少ないこと」が男性に比べて10ポイント以上高い。

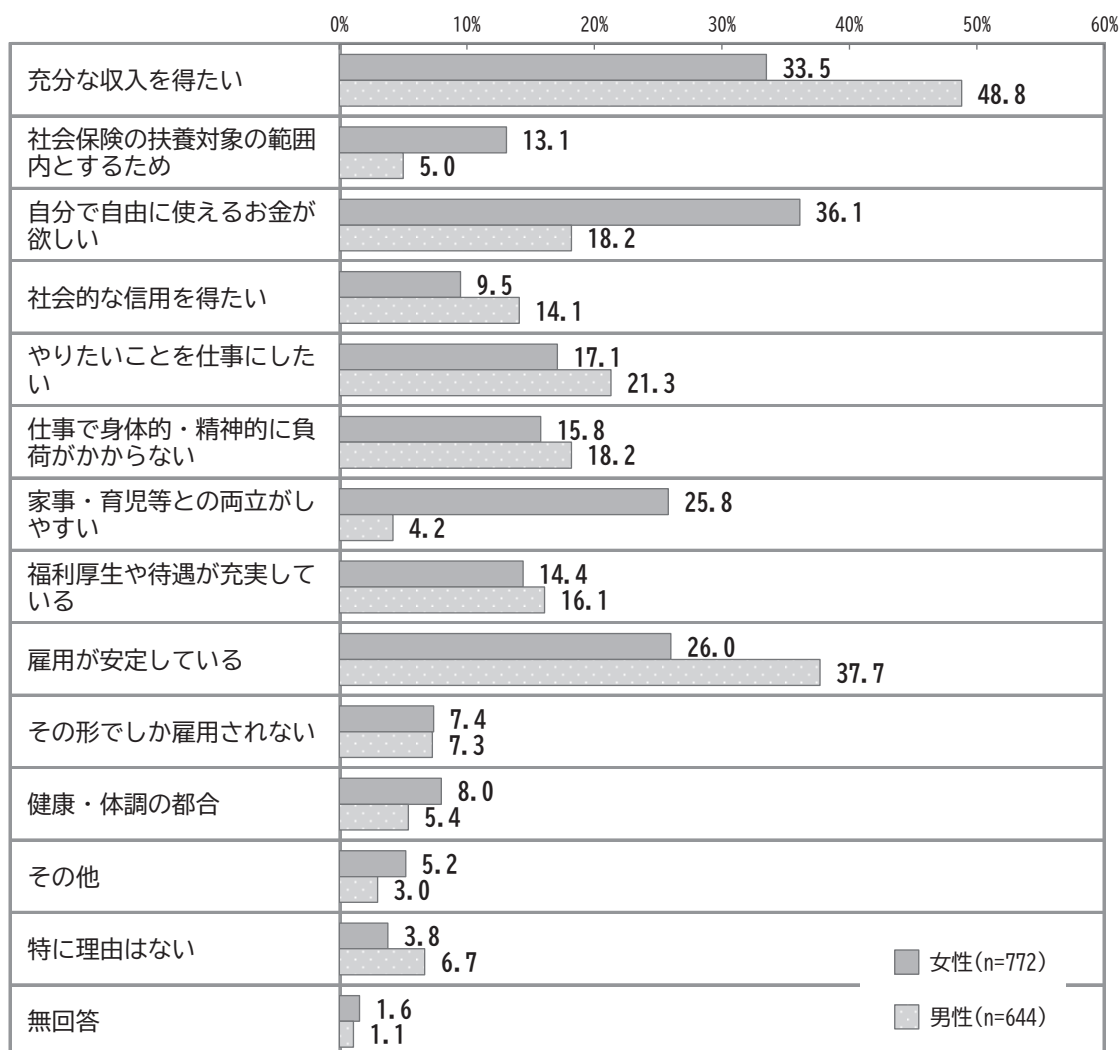


(3) 現在の就業状況、業種で働いている理由

問 2-3 問 1 ①で「1. 正規職員」、「2. パート・アルバイト」、「3. 派遣・嘱託・契約社員」と回答した方
 のみにお聞きします。

現在の「就業状況、業種」で働いている理由についてお聞かせください。(〇はいくつでも)

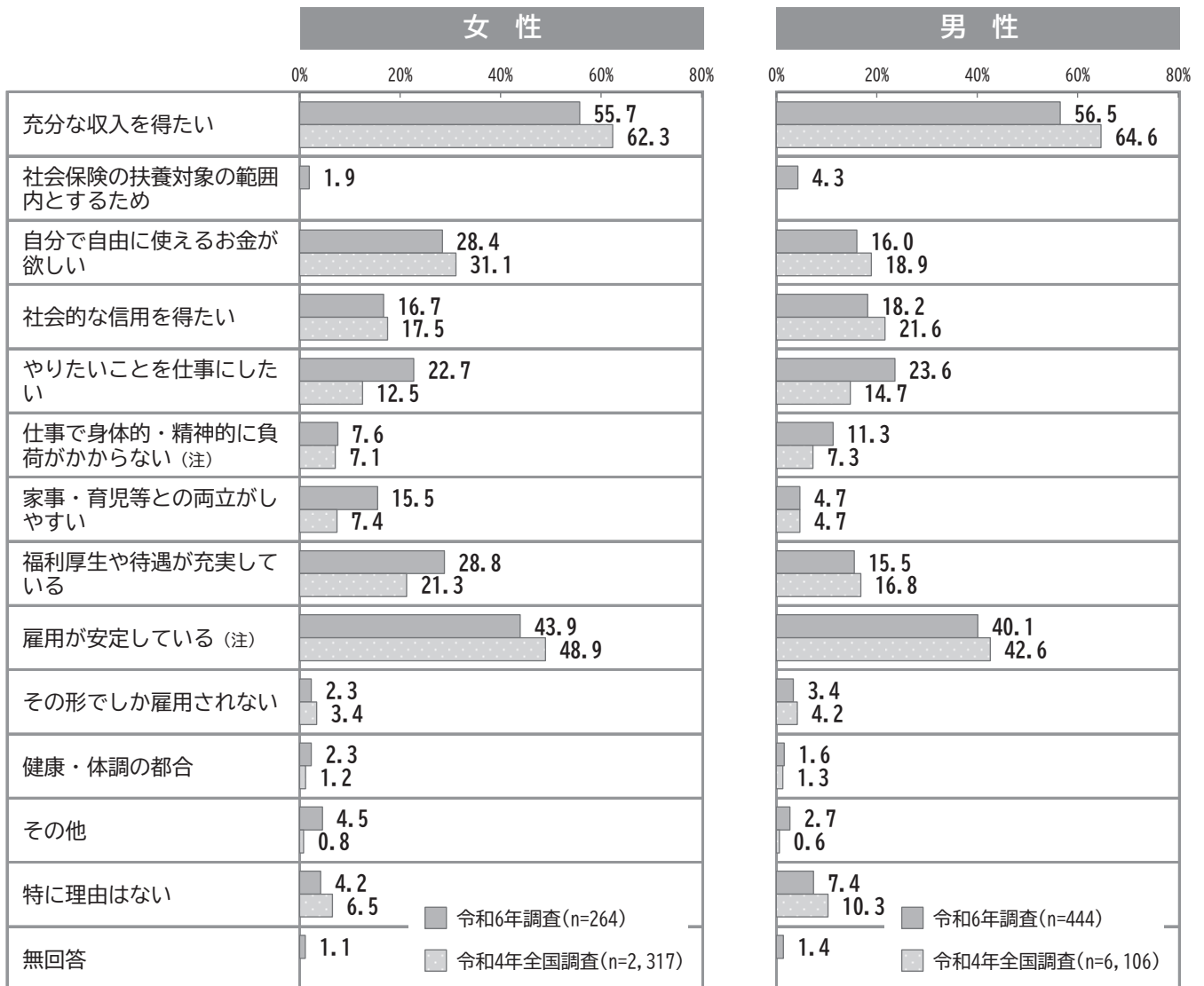
- 女性では、「自分で自由に使えるお金が欲しい」の割合が 36.1%で最も高く、「十分な収入を得たい」(33.5%)、「雇用が安定している」(26.0%)が続いている。
- 男性では、「十分な収入を得たい」の割合が 48.8%で最も高く、「雇用が安定している」(37.7%)、「やりたいことを仕事にしたい」(21.3%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「家事・育児等との両立がしやすい」が 20 ポイント以上、「自分で自由に使えるお金が欲しい」が 10 ポイント以上男性に比べて高い。男性では「十分な収入を得たい」「雇用が安定している」の割合が 10 ポイント以上女性に比べて高い。



《就労状況》

- 正規雇用労働者別にみると、女性では「十分な収入を得たい」の割合が 55.7%で最も高く、「雇用が安定している」(43.9%)、「福利厚生や待遇が充実している」(28.8%)が続いている。全国調査と比較すると、「やりたいことを仕事にしたい」「家事・育児等との両立がしやすい」「福利厚生や待遇が充実している」の割合が5ポイント以上高く、「十分な収入を得たい」「雇用が安定している」が5ポイント以上低い。
- 男性では「十分な収入を得たい」の割合が56.5%で最も高く、「雇用が安定している」(40.1%)、「やりたいことを仕事にしたい」(23.6%)が続いている。全国調査と比較すると、「やりたいことを仕事にしたい」の割合が5ポイント以上高く、「十分な収入を得たい」が5ポイント以上低い。
- 性別に比較すると、女性では「福利厚生や待遇が充実している」「自分で自由に使えるお金が欲しい」「家事・育児等との両立がしやすい」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。

■正規雇用労働者

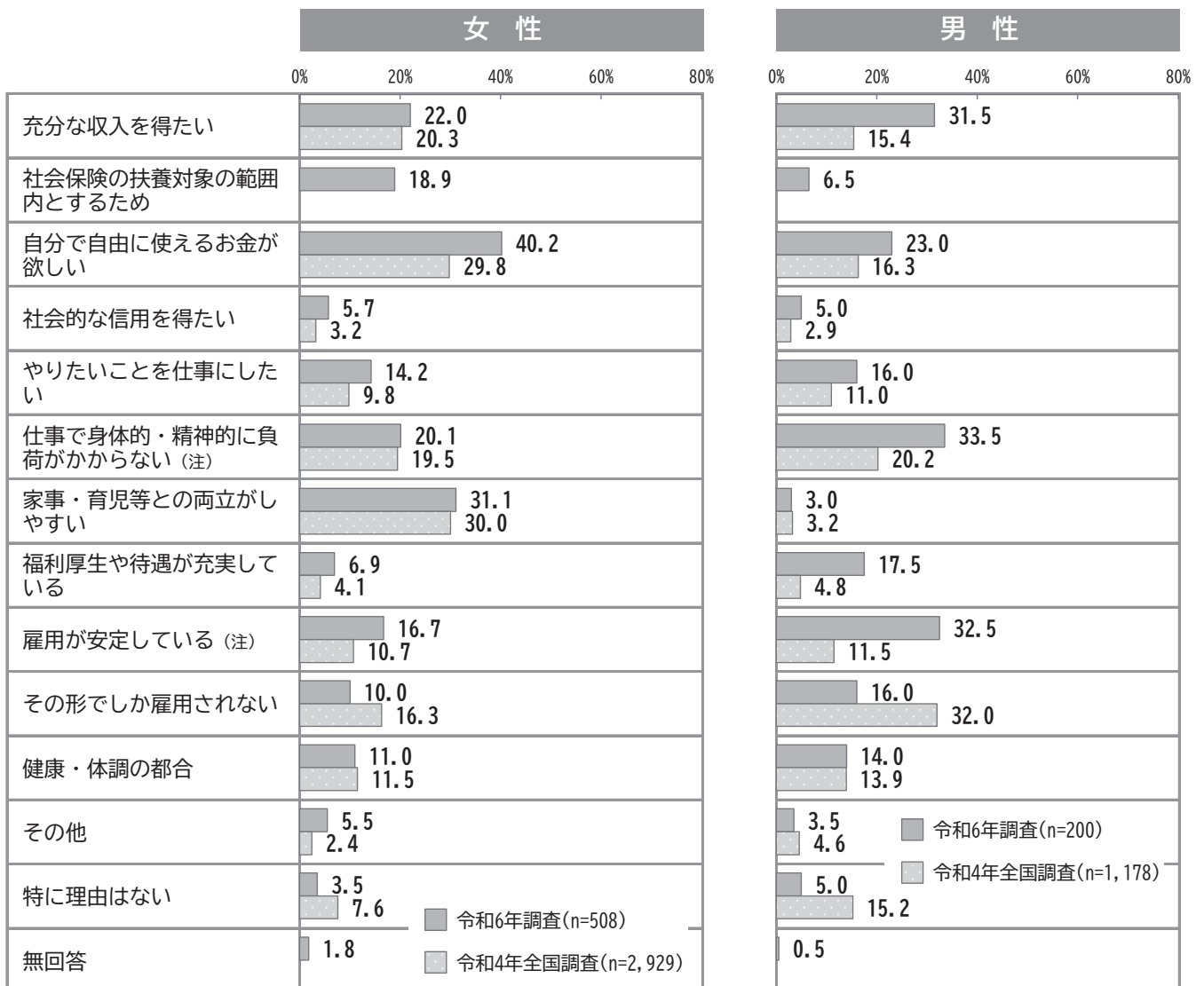


※令和4年全国調査は「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」(内閣府)より引用

※(注)は令和4年全国調査では「仕事の内容で負荷がかからないので」「安定して働きたいので」として聴取

- 非正規雇用労働者別にみると、女性では「自分で自由に使えるお金が欲しい」の割合が40.2%で最も高く、「家事・育児等との両立がしやすい」(31.1%)、「十分な収入を得たい」(22.0%)が続いている。全国調査と比較すると、「自分で自由に使えるお金が欲しい」「雇用が安定している」の割合が5ポイント以上高く、「その形でしか雇用されない」が5ポイント以上低い。
- 男性では「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」の割合が33.5%で最も高く、「雇用が安定している」(32.5%)、「十分な収入を得たい」(31.5%)が続いている。全国調査と比較すると、「雇用が安定している」の割合が20ポイント以上高く、「十分な収入を得たい」「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」「福利厚生や待遇が充実している」が10ポイント以上高い。「その形でしか雇用されない」は全国調査に比べて10ポイント以上低い。
- 性別に比較すると、女性では「家事・育児等との両立がしやすい」の割合が男性に比べて20ポイント以上、「自分で自由に使えるお金が欲しい」「社会保険の扶養対象の範囲内とするため」は男性に比べて10ポイント以上高い。男性では「雇用が安定している」「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」「福利厚生や待遇が充実している」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。

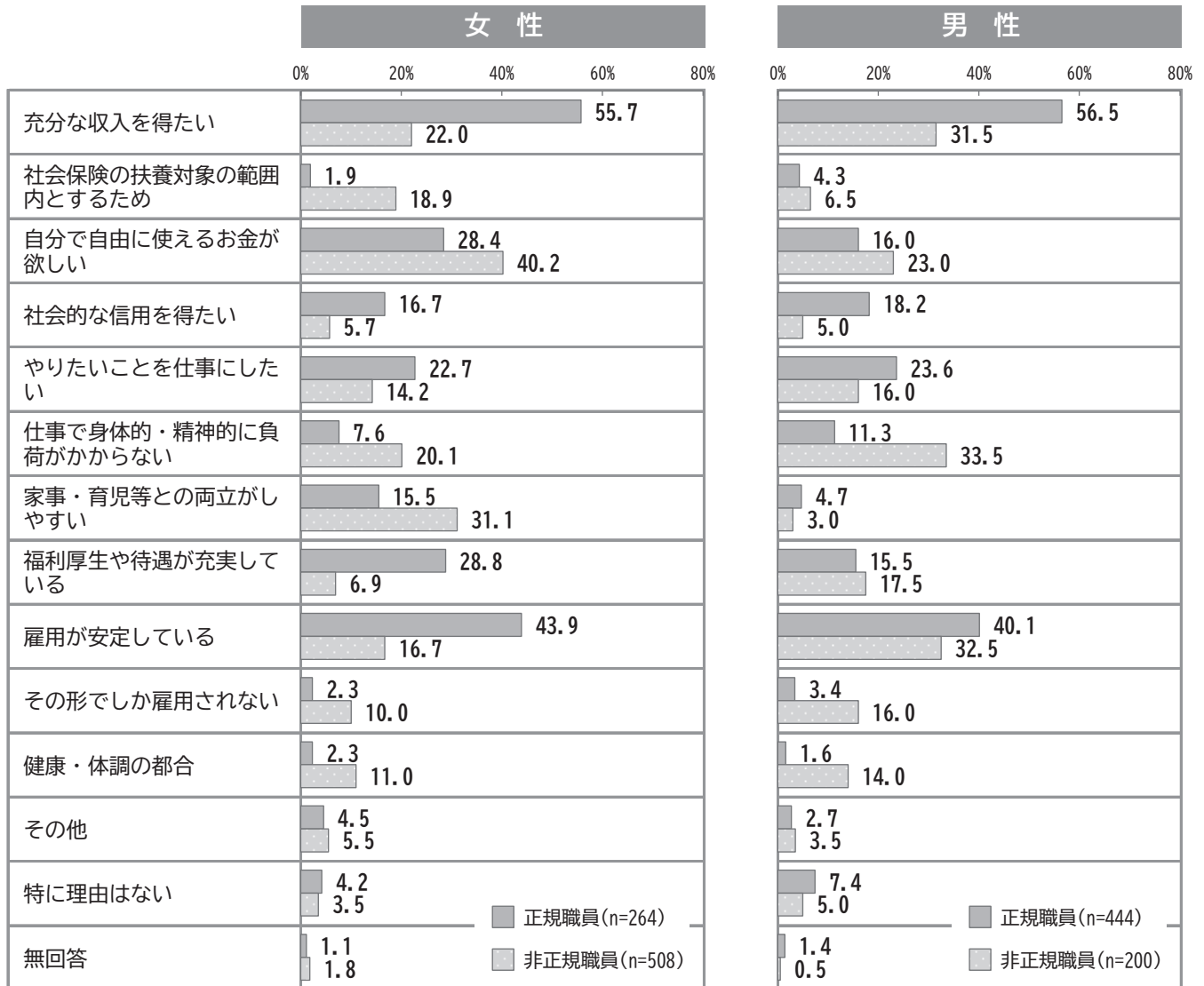
■非正規雇用労働者



※令和4年全国調査は「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」(内閣府)より引用

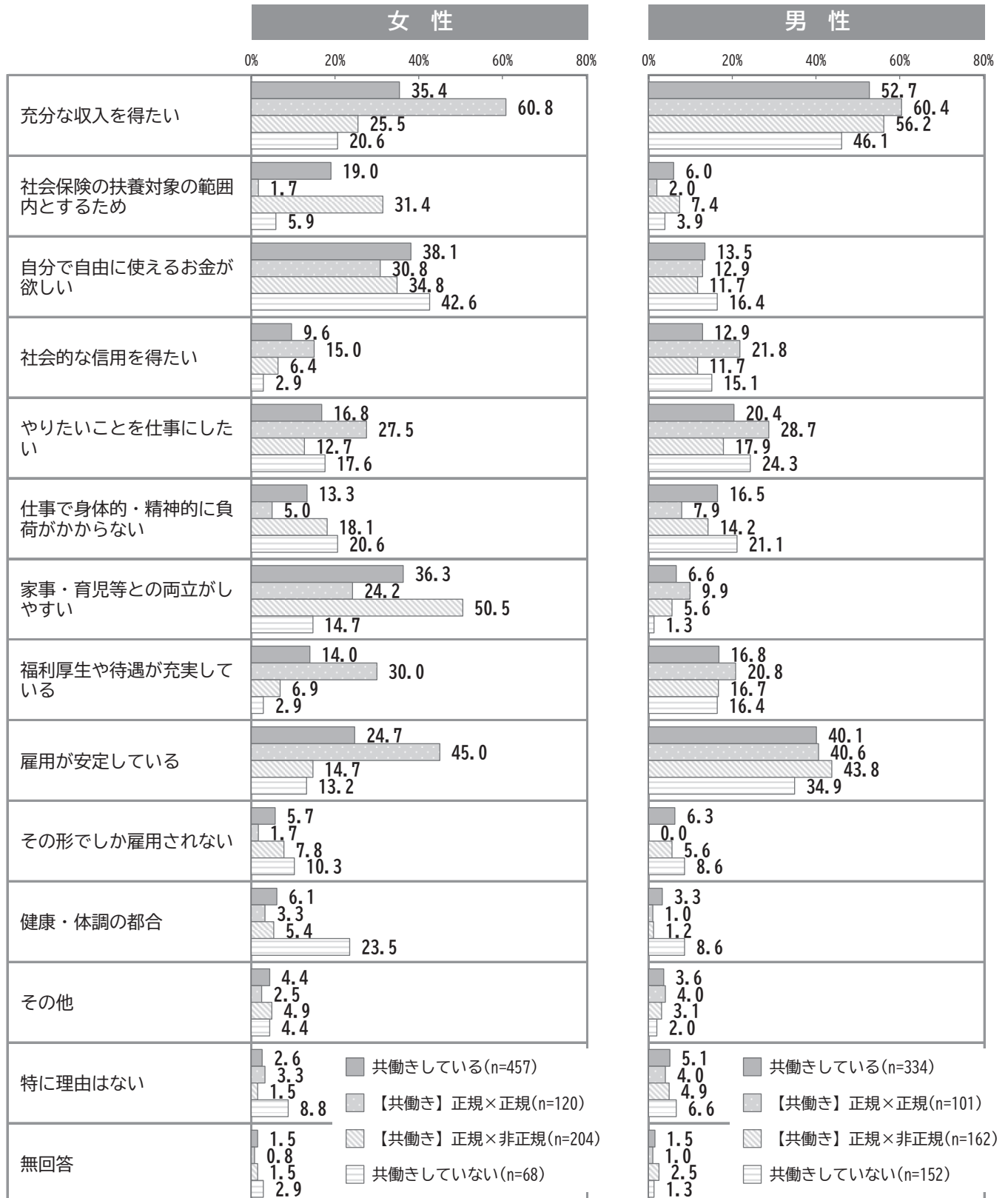
※(注)は令和4年全国調査では「仕事の内容で負荷がかからないので」「安定して働きたいので」として聴取

- 正規職員と非正規職員の差をみると、女性では、正規職員は「十分な収入を得たい」「雇用が安定している」「福利厚生や待遇が充実している」の割合が非正規職員に比べて20ポイント以上高く、「社会的な信用を得たい」が10ポイント以上高い。非正規職員は、「社会保険の扶養対象の範囲内とするため」「家事・育児等との両立がしやすい」「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」「自分で自由に使えるお金が欲しい」の割合が正規職員に比べて10ポイント以上高い。
- 男性では、「十分な収入を得たい」の割合が非正規職員に比べて20ポイント以上高く、「社会的な信用を得たい」が10ポイント以上高い。非正規職員は、「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」の割合が正規職員に比べて20ポイント以上高く、「その形でしか雇用されない」「健康・体調の都合」の割合が正規職員に比べて10ポイント以上高い。



《共働き状況》

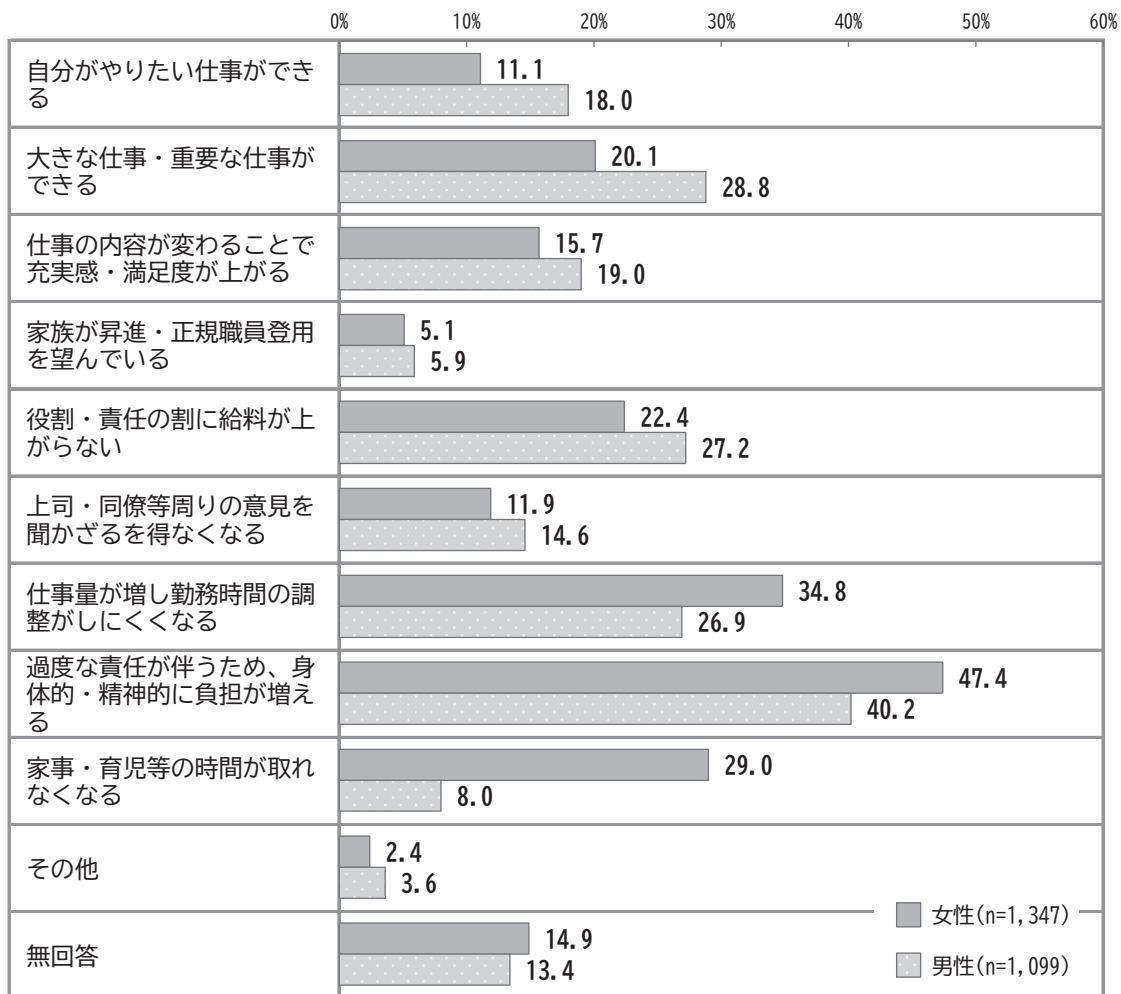
- 【共働き】正規×正規層と【共働き】正規×非正規層の差をみると、女性の【共働き】正規×正規層では「十分な収入を得たい」「雇用が安定している」「福利厚生や待遇が充実している」の割合が20ポイント以上高く、「やりたいことを仕事にしたい」が10ポイント以上高い。【共働き】正規×非正規層では「社会保険の扶養対象の範囲内とするため」「家事・育児等との両立がしやすい」の割合が20ポイント以上高く、「仕事で身体的・精神的に負荷がかからない」が10ポイント以上高い。
- 男性の【共働き】正規×正規層では「やりたいことを仕事にしたい」「社会的な信用を得たい」の割合が【共働き】正規×非正規層に比べて10ポイント以上高い。



(4) 昇進・正規職登用へのイメージ

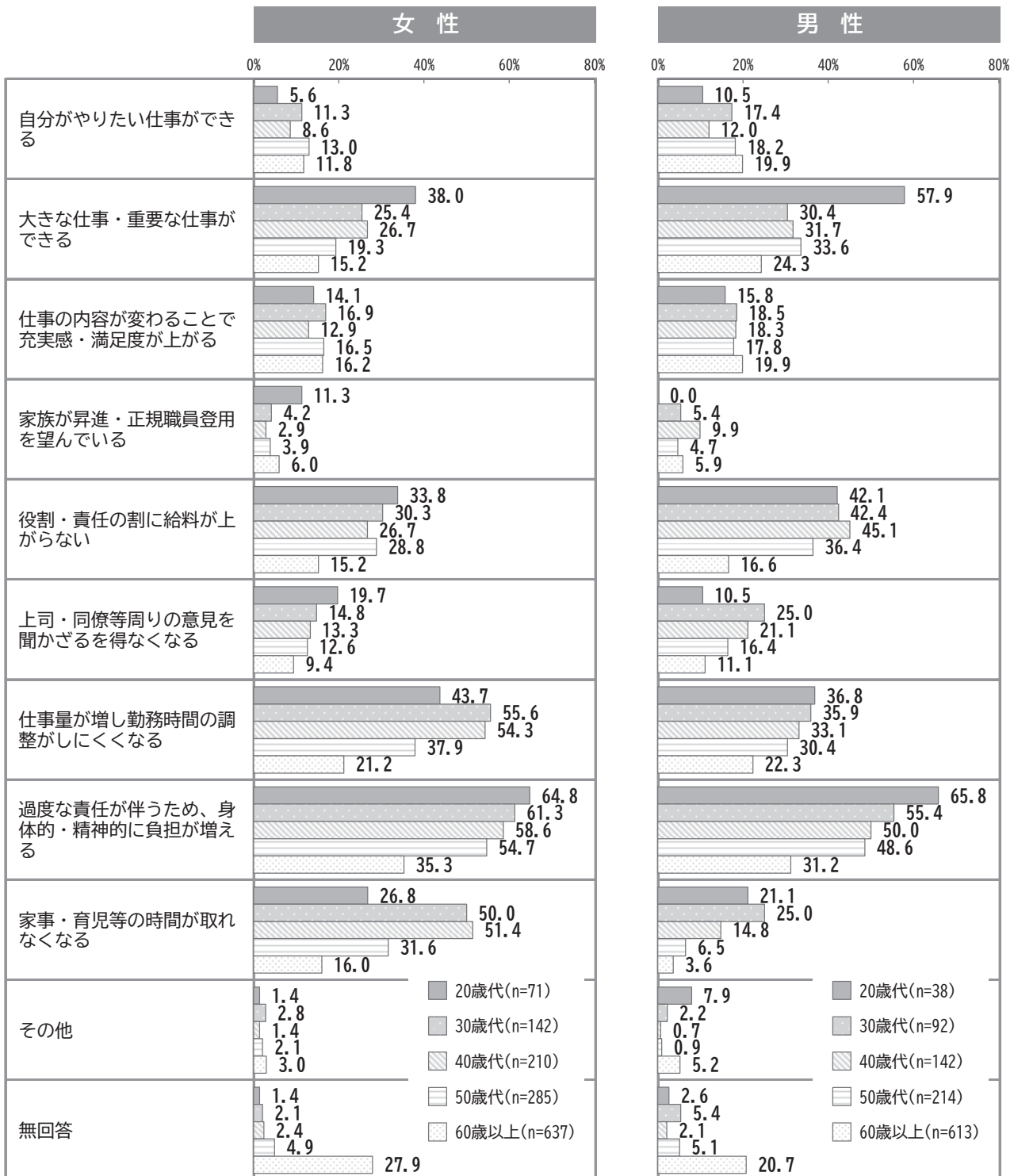
問 2-4 昇進すること、または正規職員登用についてどのようなイメージをお持ちですか。
(○はいくつでも)

- 女性では、「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」の割合が47.4%で最も高く、「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」(34.8%)、「家事・育児等の時間が取れなくなる」(29.0%)が続いている。
- 男性では、「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」の割合が40.2%で最も高く、「大きな仕事・重要な仕事ができる」(28.8%)、「役割・責任の割に給料が上がらない」(27.2%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「家事・育児等の時間が取れなくなる」が男性に比べて20ポイント以上、「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」が5ポイント以上高い。男性では、「大きな仕事・重要な仕事ができる」「自分がやりたい仕事ができる」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



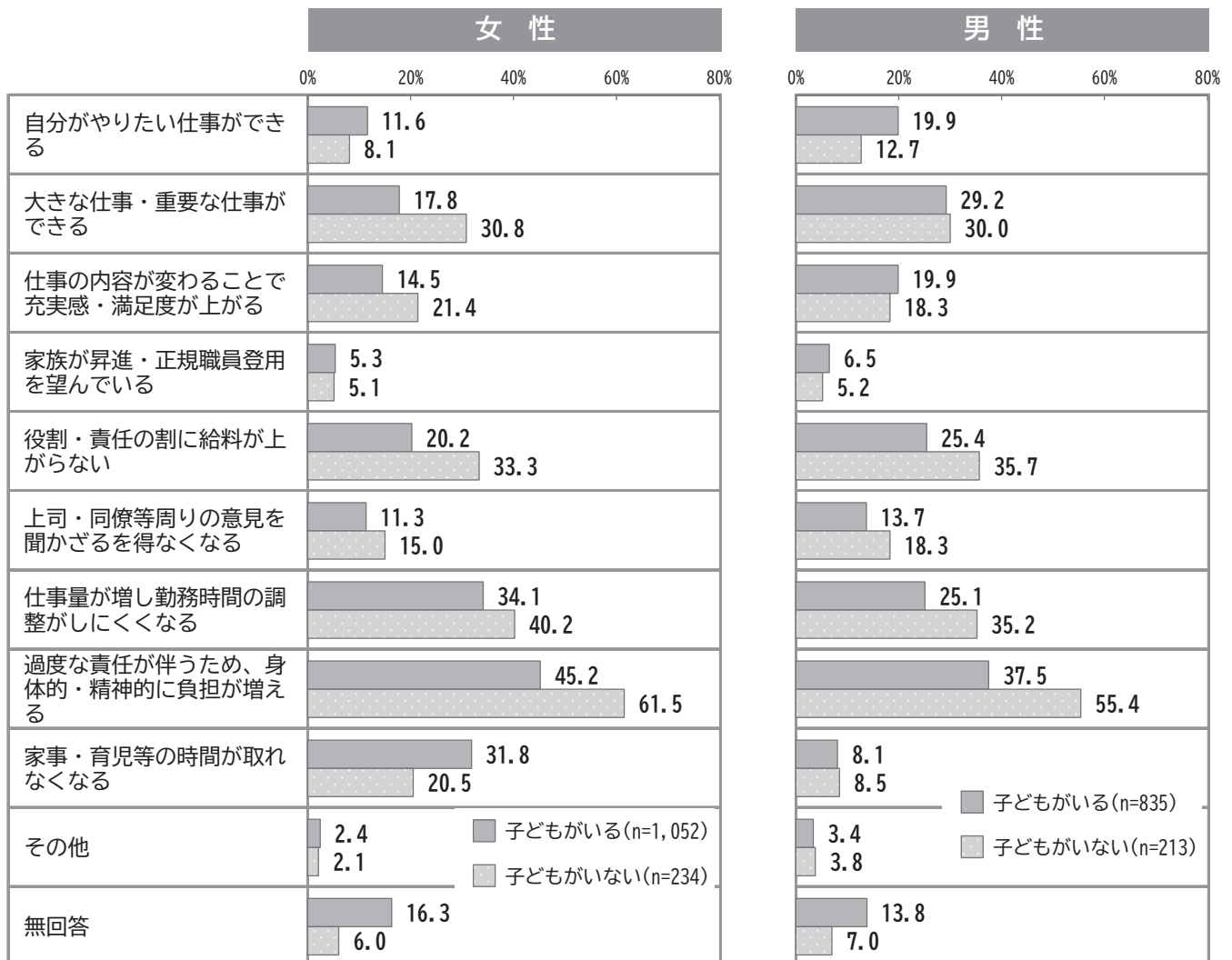
《年代》

- 年代別にみると、男女ともに概ね年代が若くなるほど「大きな仕事・重要な仕事ができる」の割合が高いものの、「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」の割合も年代が若くなるほど高くなっている。
- 女性では、30歳代から40歳代にかけて「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」「家事・育児等の時間が取れなくなる」の割合が他の年代に比べて10ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、女性では30歳代から40歳代にかけて「家事・育児等の時間が取れなくなる」の割合が男性に比べて20ポイント以上、「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」が10ポイント以上高い。男性では、20歳代から50歳代にかけて「大きな仕事・重要な仕事ができる」「役割・責任の割に給料が上がらない」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



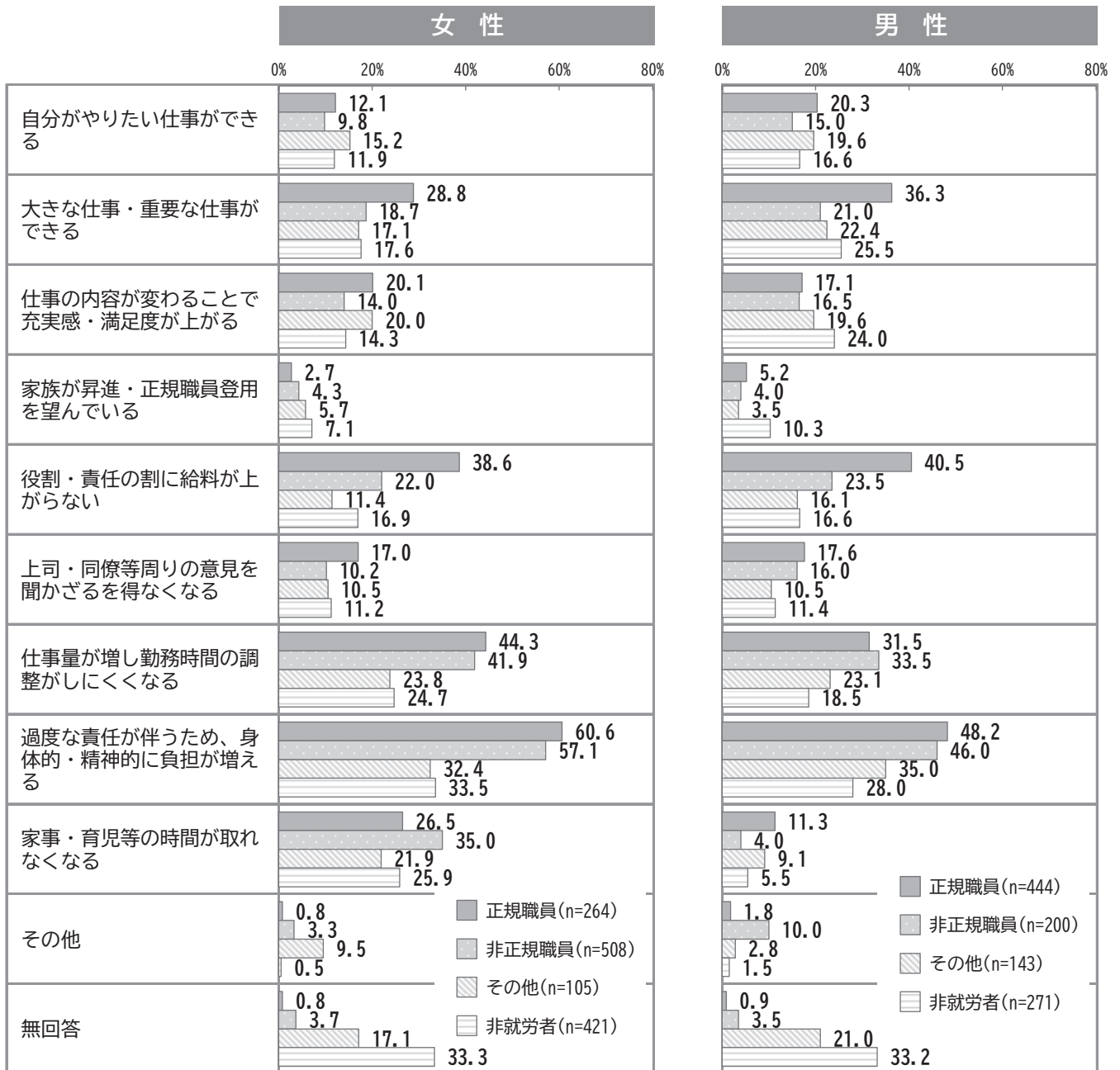
《子どもの有無》

- 子どもの有無別に 10 ポイント以上差のある項目をみると、子どもがいる女性では「家事・育児等の時間が取れなくなる」が子どもがいない層に比べて高く、子どもがいない女性は「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」「役割・責任の割に給料が上がらない」「大きな仕事・重要な仕事ができる」が子どもがいる層に比べて高い。
- 子どもがいる男性では子どもがいない層より 10 ポイント以上高い項目はみられない。子どもがいない男性は「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」「役割・責任の割に給料が上がらない」「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」の割合が子どもがいる層に比べて高い。
- 性別に比較すると子どもがいる女性は「家事・育児等の時間が取れなくなる」の割合が子どもがいる男性に比べて 20 ポイント以上高く、子どもがいる男性は「大きな仕事・重要な仕事ができる」の割合が子どもがいる女性に比べて 10 ポイント以上高い。



《就労状況》

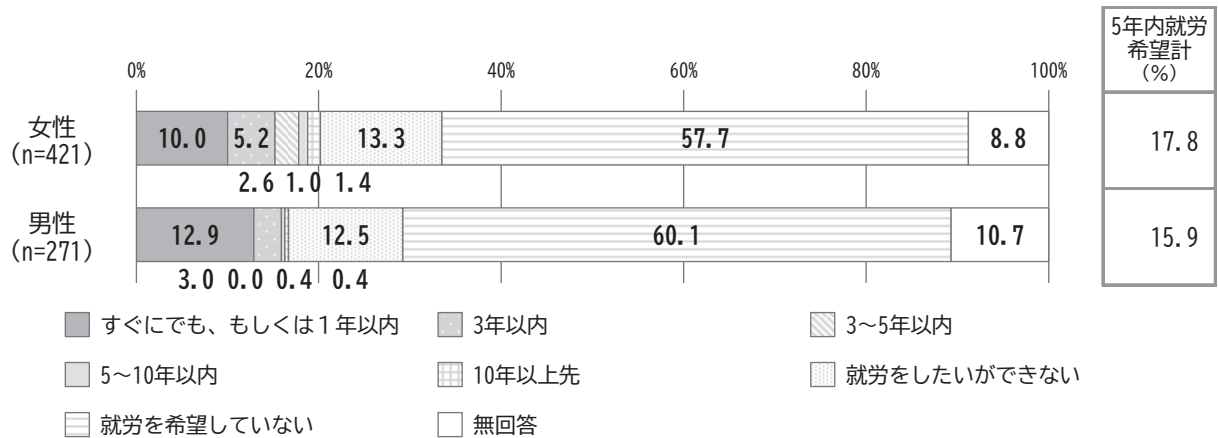
- 就労状況別にみると、男女ともに正規職員は「役割・責任の割に給料が上がらない」「大きな仕事・重要な仕事ができる」の割合が非正規職員に比べて10ポイント以上高い。女性非正規職員は「家事・育児等の時間が取れなくなる」の割合が女性正規職員に比べて5ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、女性正規職員は「家事・育児等の時間が取れなくなる」「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」の割合が男性正規職員に比べて10ポイント以上高い。女性非正規職員は「家事・育児等の時間が取れなくなる」の割合が男性非正規職員に比べて30ポイント以上、「過度な責任が伴うため、身体的・精神的に負担が増える」は10ポイント以上高い。



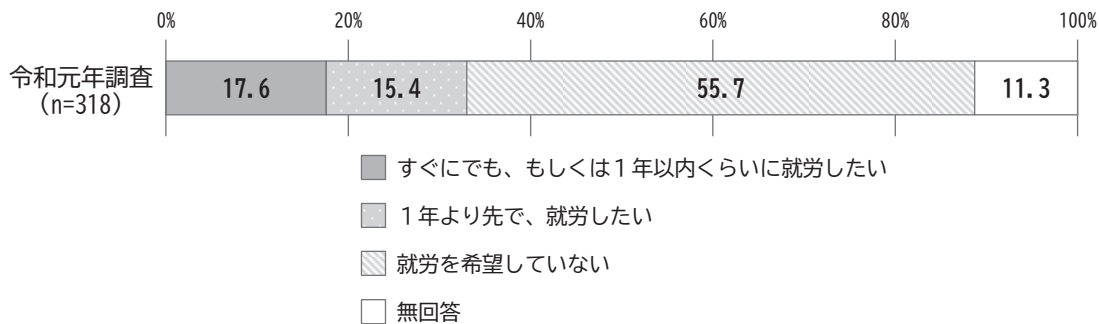
(5) 就労希望

問 2-5 問 1 ①で「6. 以前は働いていたが、今は働いていない」、「7. これまで働いた経験がない」と回答した方のみにお聞きします。
 今後就労を希望されていますか。(○は1つ)

- 女性では、「すぐにでも、もしくは1年以内」の割合が10.0%、「3年以内」(5.2%)、「3～5年以内」(2.6%)をあわせた17.8%が直近5年以内に就労を希望している。令和元年調査と比較すると、「すぐにでも、もしくは1年以内」の割合が7.6ポイント低下している。
- 男性では「すぐにでも、もしくは1年以内」の割合が12.9%、「3年以内」(3.0%)、「3～5年以内」(0.0%)をあわせた15.9%が直近5年以内に就労を希望している。

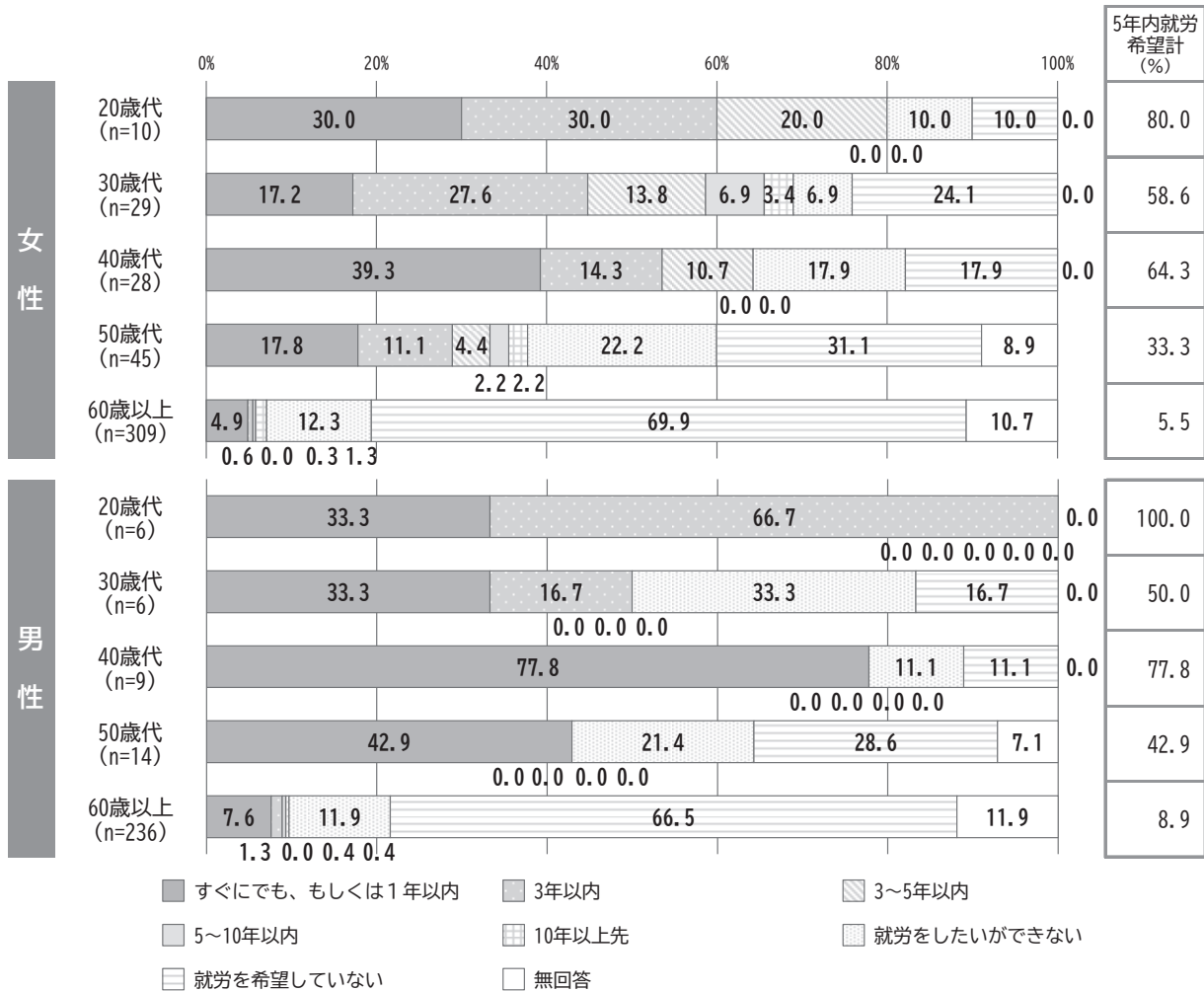


■女性



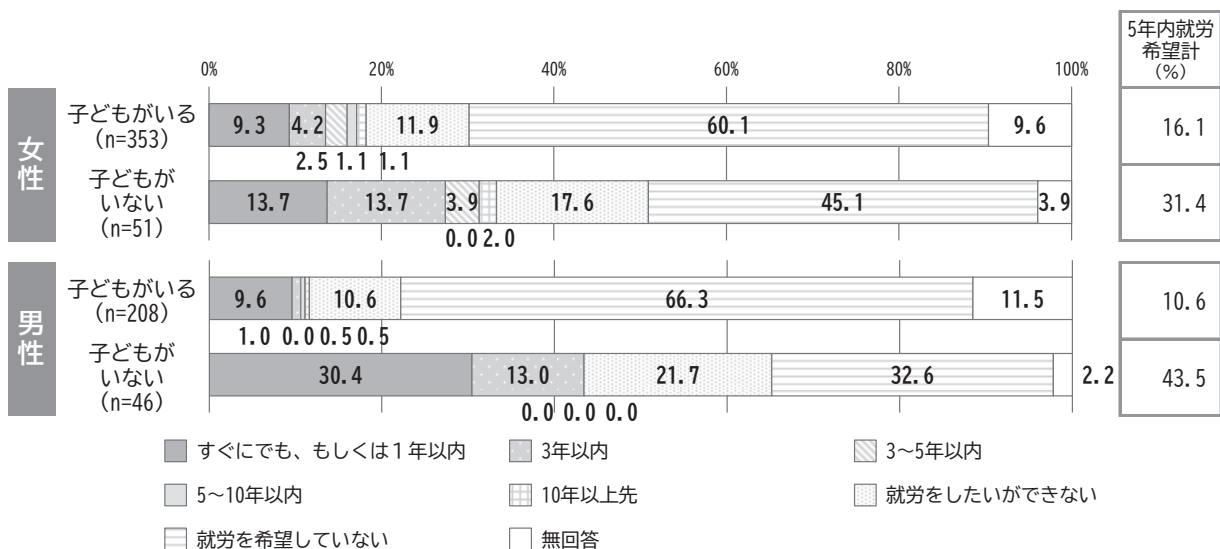
《年代》

- 女性では、年代別については回答者数が少ないため参考ではあるが、5年内就労希望計をみると、女性では30歳代で58.6%、40歳代で64.3%、50歳代で33.3%である。



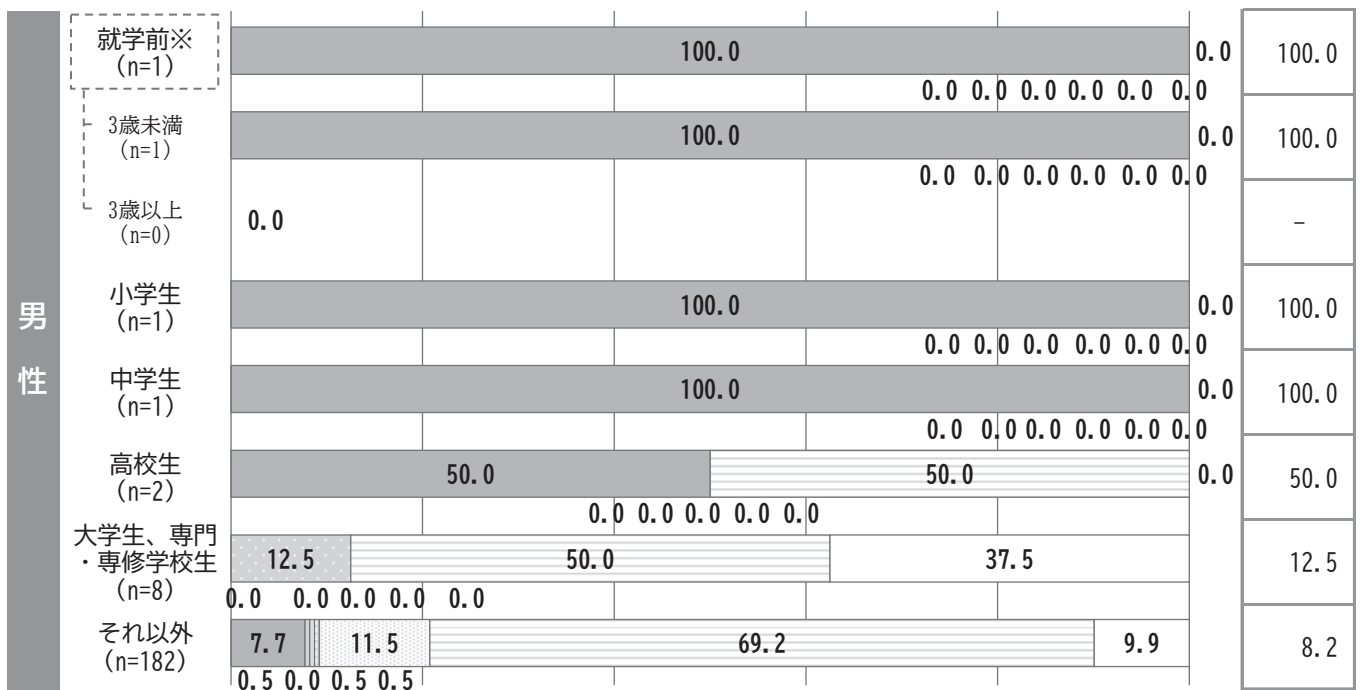
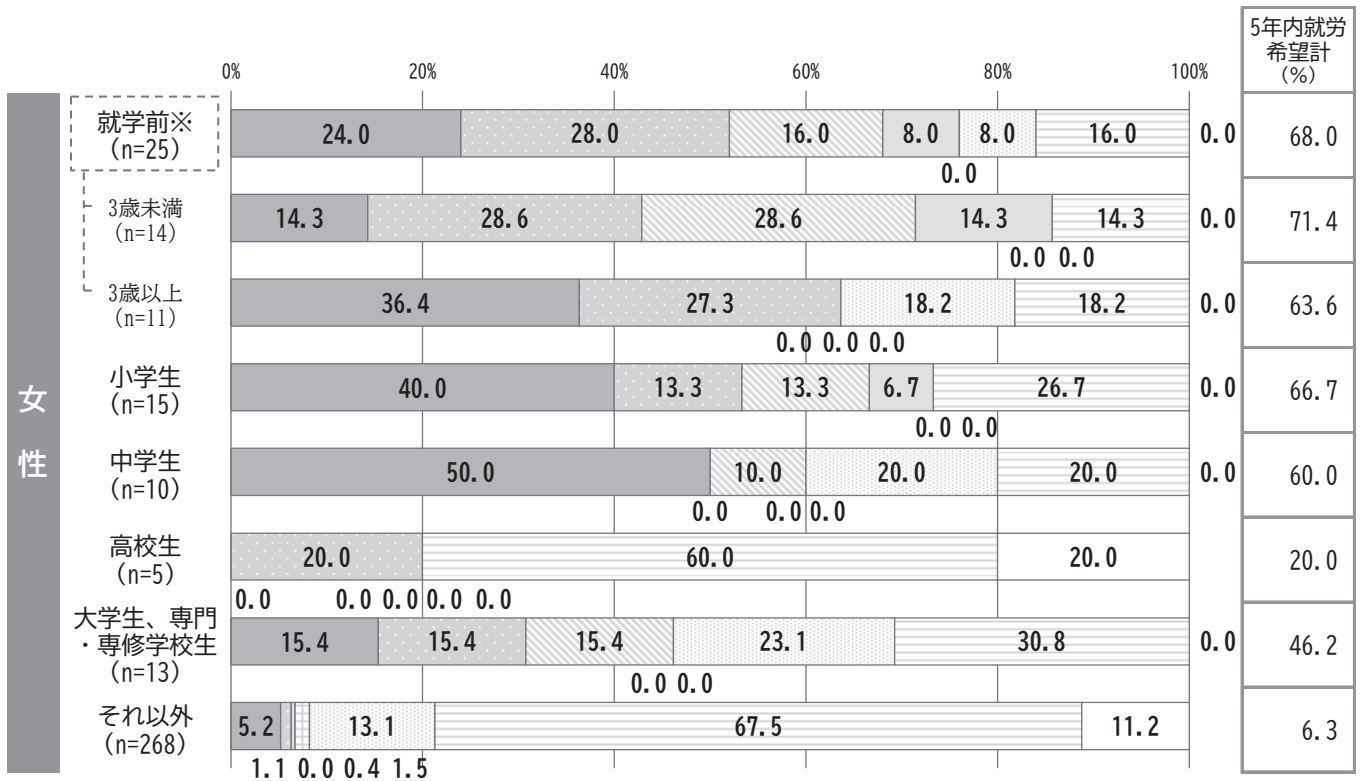
《子どもの有無》

- 子どもの有無別に5年内就労希望計をみると、女性では、子どもがいる層で16.1%、子どもがいない層で31.4%である。
- 男性では、子どもがいる層で10.6%、子どもがいない層で43.5%である。
- 性別に比較すると、子どもがいる女性の5年内就労希望計が男性に比べて5ポイント以上高い。



《末子年齢》

• 末子年齢別については回答者数が少ないため参考ではあるが、女性では3歳未満で70%以上が5年以内に就労を希望している。



すぐにも、もしくは1年以内
 3年以内
 3~5年以内
 5~10年以内
 10年以上先
 就労をしたいができない
 就労を希望していない
 無回答

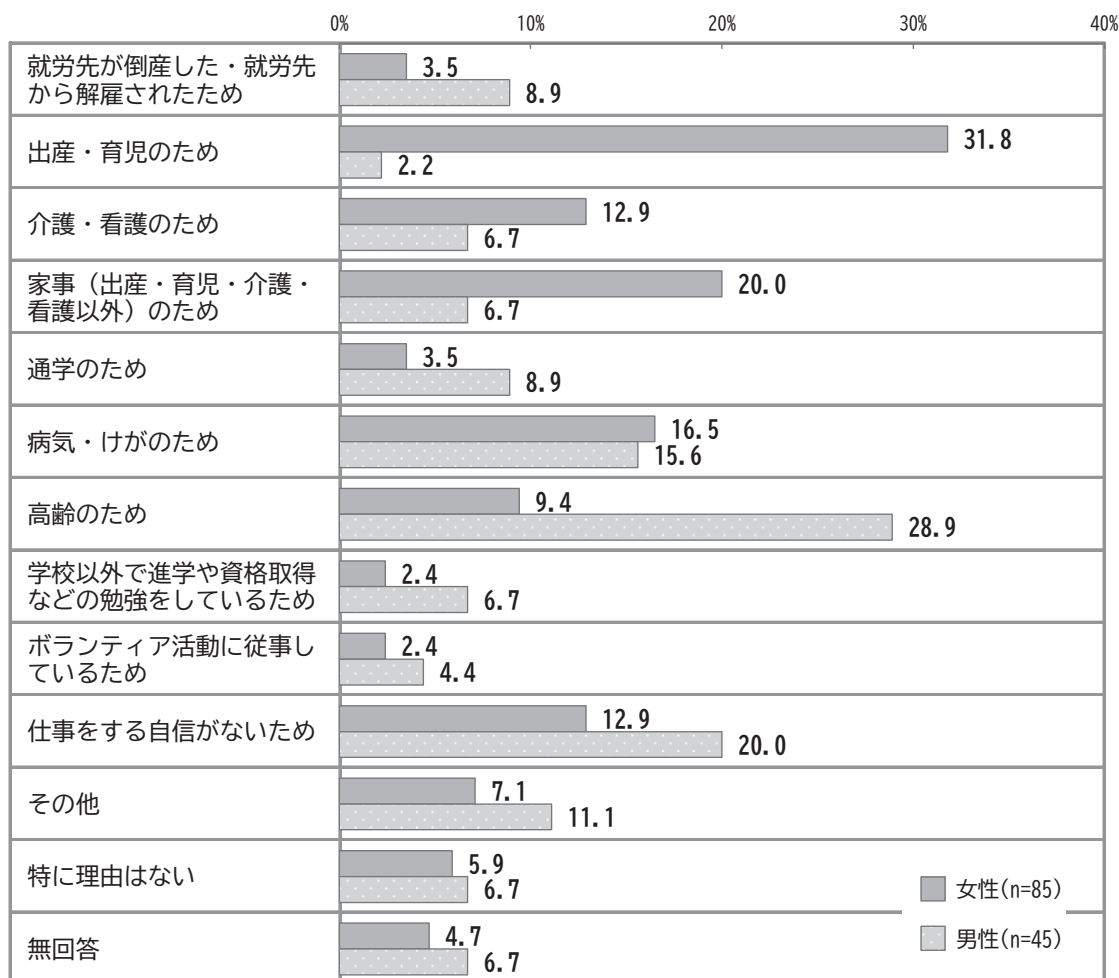
※就学前：「3歳未満」「3歳以上」をあわせた回答者

(6) 就労していない理由

問 2-6 問 2-5 で「1. すぐにでも、もしくは1年以内 ~ 5. 10年以上先」と回答した方のみにお聞きします。

現在就労していない（できない）理由についてお聞かせください。（○は上位3つまで）

- 女性では、「出産・育児のため」の割合が31.8%で最も高く、「家事（出産・育児・介護・看護以外）のため」(20.0%)、「病気・けがのため」(16.5%)が続いている。
- 男性では、「高齢のため」の割合が28.9%で最も高く、「仕事をする自信がないため」(20.0%)、「病気・けがのため」(15.6%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「出産・育児のため」「家事（出産・育児・介護・看護以外）のため」が男性に比べて10ポイント以上高く、男性では「高齢のため」が女性に比べて10ポイント以上高い。

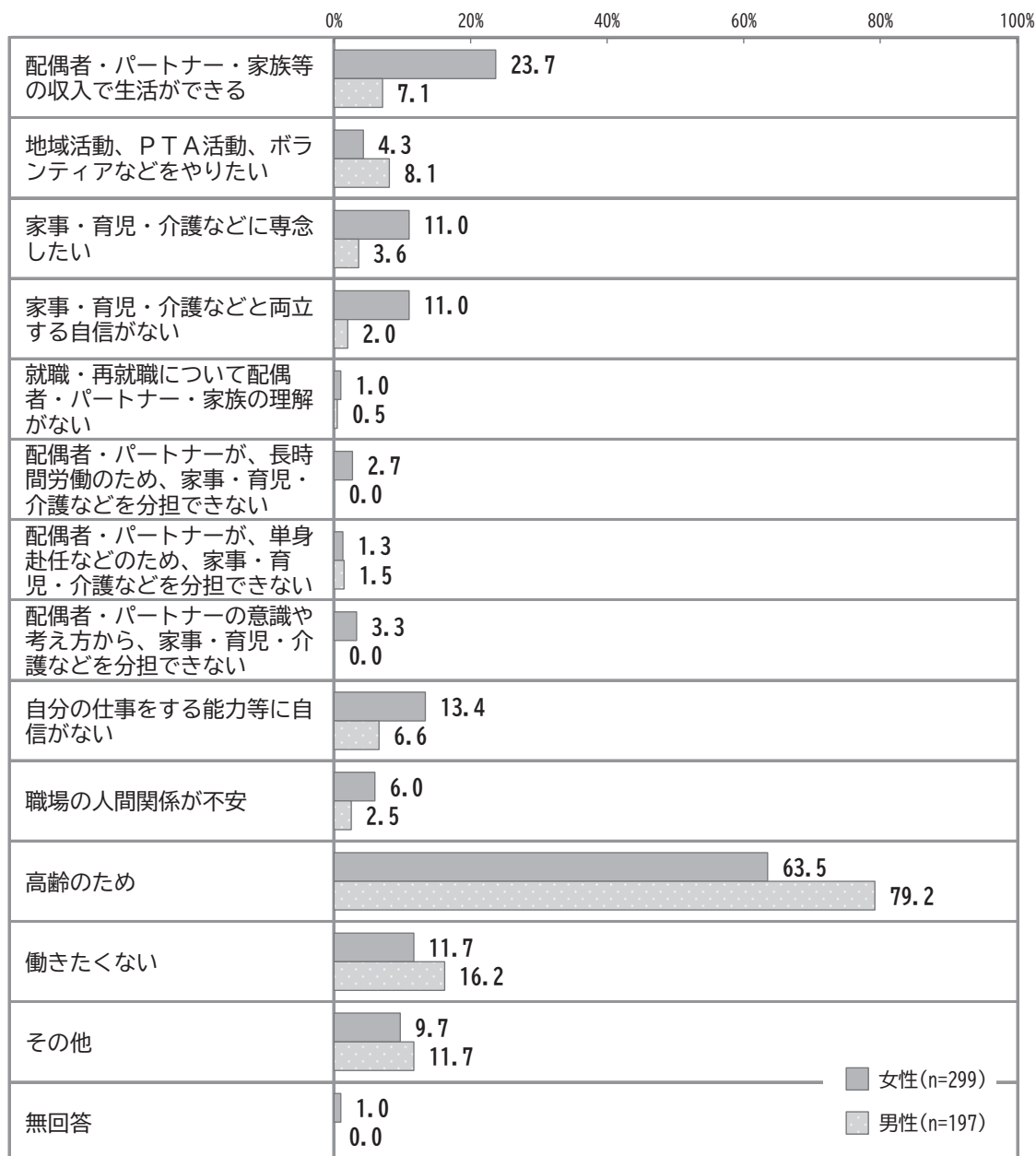


(7) 就労を希望しない理由

問 2-7 問 2-5 で「6. 就労をしたいができない」、「7. 就労を希望していない」と回答した方のみにお聞きします。

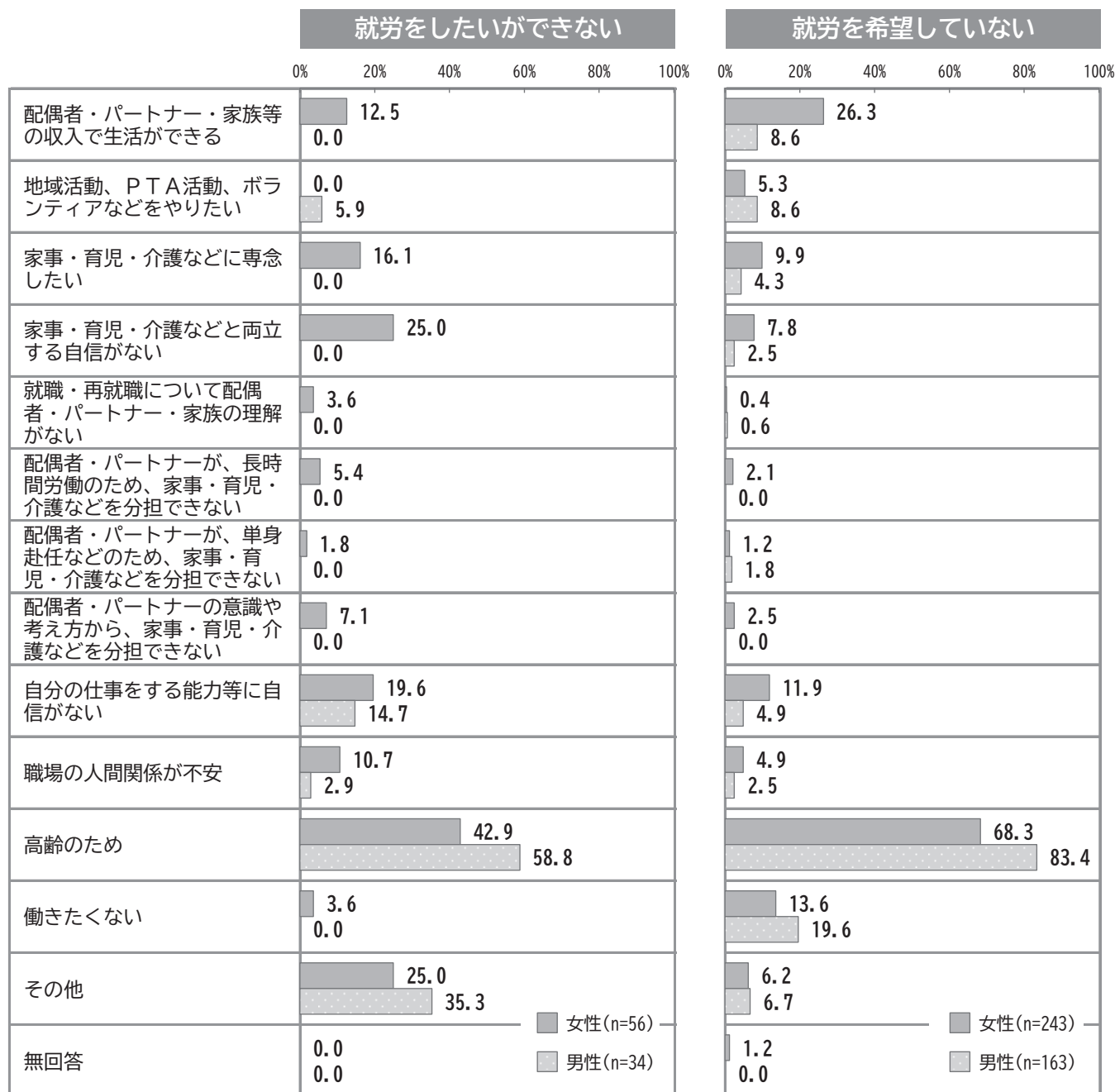
就労を希望しない理由についてお聞かせください。(○は上位3つまで)

- 女性では、「高齢のため」の割合が 63.5% で最も高く、「配偶者・パートナー・家族等の収入で生活ができる」(23.7%)、「自分の仕事をする能力等に自信がない」(13.4%) が続いている。
- 男性では、「高齢のため」の割合が 79.2% で最も高く、「働きたくない」(16.2%)、「その他」(11.7%) が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「配偶者・パートナー・家族等の収入で生活ができる」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高い。



《就業意向》

- 就業意向別にみると、就労をしたいができない層では、男女ともに「高齢のため」の割合が最も高い。女性では「家事・育児・介護などと両立する自信がない」「その他」「自分の仕事をする能力等に自信がない」が続いており、男性では「その他」「自分の仕事をする能力等に自信がない」「地域活動、PTA活動、ボランティアなどをやりたい」が続いている。
- 就労を希望していない層では、男女ともに「高齢のため」の割合が最も高い。女性では「配偶者・パートナー・家族等の収入で生活ができる」が続いており、男性では「働きたくない」が続いている。



《年代》

- 年代別にみると、女性では、50歳代以下で「配偶者・パートナー・家族等の収入で生活ができる」の割合が40.0%で最も高く、「自分の仕事をする能力等に自信がない」(33.3%)、「その他」(31.1%)が続いている。
- 男女ともに60歳以上で「高齢のため」の割合が7～8割台で最も高い。

